

ご当地 自慢

～水明の里～
長和町

20

東信森林管理署

長和町は長野県の中東部、小県郡の南部に位置し、平成十七年十月に長門町と和田村が合併して誕生し、町名は両町村の頭文字より命名されました。

◆豊富な水の町

町内和田地区の旧中山道沿いには、湧き水を中心とした水呑場が、みどころとして各地に設置され、気軽に美味しい水を飲むことができ、水明の里といわれるほど四季を通じて豊かな水に恵まれています。なかでも中山道の難所であった和田峠周辺は、黒曜石の産地として全国的にも有名ですが、ここから湧出する水は



黒曜の水(水場)

「黒曜の水」と名付けられています。地元では、和田峠の黒曜の水は、超軟水で腐らない水として、昔から水道水源として利用されてきました。水場は新和田トンネル料金所近くに設けられていますが、遠方からも黒曜石により濾過された名水を求め多くの方が汲みに訪れています。

◆鷹山(たかやま)遺跡群

大門川支流の鷹山川上流の盆地状の地形にいくつかの旧石器時代の遺跡が点在しており、これらを総称して鷹山遺跡群と呼んでいます。



ブランシュたかやまスキー場から星糞峠を望む

この遺跡は、地元研究者であった児玉司農武氏(同町大門出身)により発見され、黒曜石原産地における旧石器時代の活動の痕跡が次第に知られることとなりました。

また、一九九〇年代になって、近くの星糞(ほしくそ)峠一帯で縄文時代の黒曜石の採掘跡が確認され、星糞峠黒曜石原産地遺跡(国史跡)として現在も研究が進められています。

黒曜石や遺跡に興味のある方、石器作りを体験したい方は鷹山地籍に黒曜石体験ミュージアムがありますので、一度訪れてみてはいかがでしょうか。

◆長久保宿と本陣(町指定文化財)

長久保宿は慶長七年の中山道制定に伴い真田氏の支配下により宿場が形成されました。寛永八年の大洪水により、宿場を現在の地へ移し、本陣・問屋を中心に東西方向に「縦(たて)町」が、宿が賑わうにつれて「横町」が形成され特異なL字型の町並みとなりました。一時は四十軒前後の旅籠屋が軒を連ね、中山道信濃二十六宿の中では塩尻宿に次ぐ規模であったとされています。

この長久保宿にある本陣は真田幸村(二〇一六年大河ドラマ「真田丸」の主

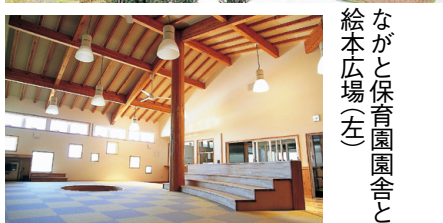


長久保宿本陣

人公)の娘が嫁いだとされる石合家が勤め、現存する遺構は御殿と表門があり、御殿は十七世紀後半の構築と推定され中山道中では、最古の本陣遺構といわれています。

◆公共建築物への地域材利用

町は積極的に長和町の自然の中で育った地域産の木材利用に取り組んでおり、本年十月に竣工した長和町の統合保育園(ながと保育園)は「自然の懐に抱かれ、太陽の恵み、風の流れ、木々のぬくもりを感じ」との設計コンセプトにより地元産カラマツをふんだんに使用して建設されました。



ながと保育園園舎と
絵本広場(左)

構造材の約七割は、町産材であり、高齢級の国有林材は要所に柱材として活用されました。

現在、町では役場庁舎の新築に着手しており、引き続き地域産の木材利用を進めるなど歴史に息づいたふるさと創りに取り組んでいます。